

アイセル シュラ ホール 観光拠点化基本構想



アイセル シュラ ホール
観光拠点化基本構想

令和 5 年 3 月

藤井寺市

作成：株式会社スタジオ三十三

第1章 アイセルシュラホール活用事業の経緯と目的	1
1-1 経緯と目的	3
第2章 現状と課題	5
2-1 はじめに	7
2-2 藤井寺市の基本情報	7
2-3 藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布の現状	14
2-4 アイセルシュラホールの現状	18
2-5 課題	22
第3章 基本理念と方針	25
3-1 基本理念	27
3-2 方針	29
第4章 必要機能と内容	31
4-1 観光案内機能	33
4-2 文化財展示(重要文化財含む)・世界遺産ガイダンス機能	35
4-3 その他	36
第5章 ゾーニング	37
第6章 観光案内計画	45
6-1 アイセルシュラホールにおける観光案内計画	47
6-2 市民と観光客との交流の創出	50
6-3 アイセルシュラホール周辺のサイン及び動線計画	51
第7章 文化財展示計画	57
7-1 展示計画の考え方	59
7-2 展示の全体構成	59
7-3 各展示コーナーの展開	60
7-4 その他の展示・空間利用	61
第8章 イメージ図	65
第9章 今後のスケジュール	71
巻末資料	75

第1章

アイセルシュラホール活用事業の経緯と目的

1-1 経緯と目的

1-1-1 経緯

平成6年7月に開設された藤井寺市立生涯学習センター（以下、アイセルシュラホール）は、生涯学習機能や公民館機能を有する教育施設である。また、船形埴輪と修羅をモチーフとした建物外観から本市のシンボル施設として長年にわたって存在感を示してきた。

令和元年7月に「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録が決定したことを踏まえ、翌8月に庁内特命チームである「アイセルシュラホール活用検討チーム（以下、チームK）」が発足した。現状の教育施設としての位置づけのみならず、古市古墳群周遊ルート上のシンボリック施設としての活用を検討し、市長に提案書を提出した。

令和2・3年度は新型コロナウイルスの影響により検討は一部中断にはなったが、チームKの提案のうち、短期方策である文化財整理室の移設とフォトスポットの設置を行った。

1-1-2 目的

上記の経緯を踏まえ、古市古墳群周遊ルート上の最も主要な観光拠点、古墳ミュージアム（仮称）として活用するにあたり、有識者や関係部署職員による検討会議を踏まえ、アイセルシュラホールの観光拠点施設としてのコンセプトや必要な機能を取りまとめることを目的として、アイセルシュラホール観光拠点化基本構想（以下、基本構想）を作成する。

なお、基本構想のアイセルシュラホールにおける対象エリアは1階、2階及び屋外である。また、令和7年の大阪・関西万博に合わせてリニューアルオープンをめざすため、本年度を基本構想の作成、令和5年度に実施設計、令和6年度に改修・施工の予定である。

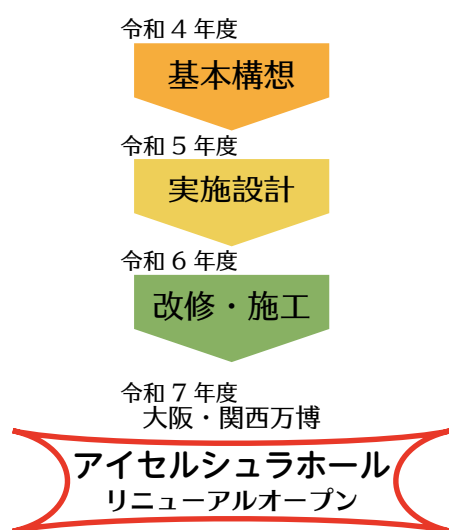


図 1-1 事業計画（予定）

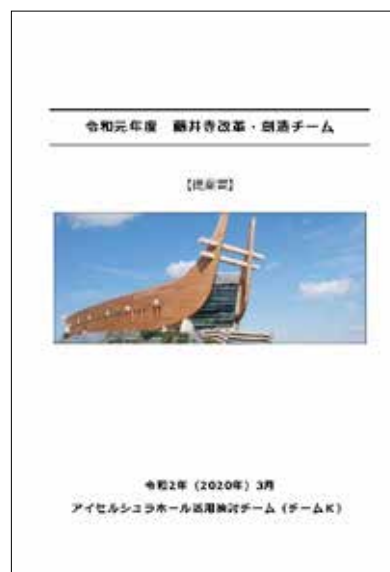


図 1-2 チームK提案書

第2章

現状と課題

2-1 はじめに

ここでは、アイセルシュラホールの現状と課題に入る前に、本施設がある藤井寺市の基本情報と、藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布、アイセルシュラホールの現状を記す。また、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産としての価値を記し、それらを踏まえた上で課題を記す。

2-2 藤井寺市の基本情報

2-2-1 立地

藤井寺市は大阪平野の南東部に位置し、奈良時代には河内国府が置かれた河内の中心地である。市域面積 8.89km²で、大阪府下で最も小さい市であるとともに全国でも 5 番目に小さいが、人口密度は府下で 9 番目に高い。

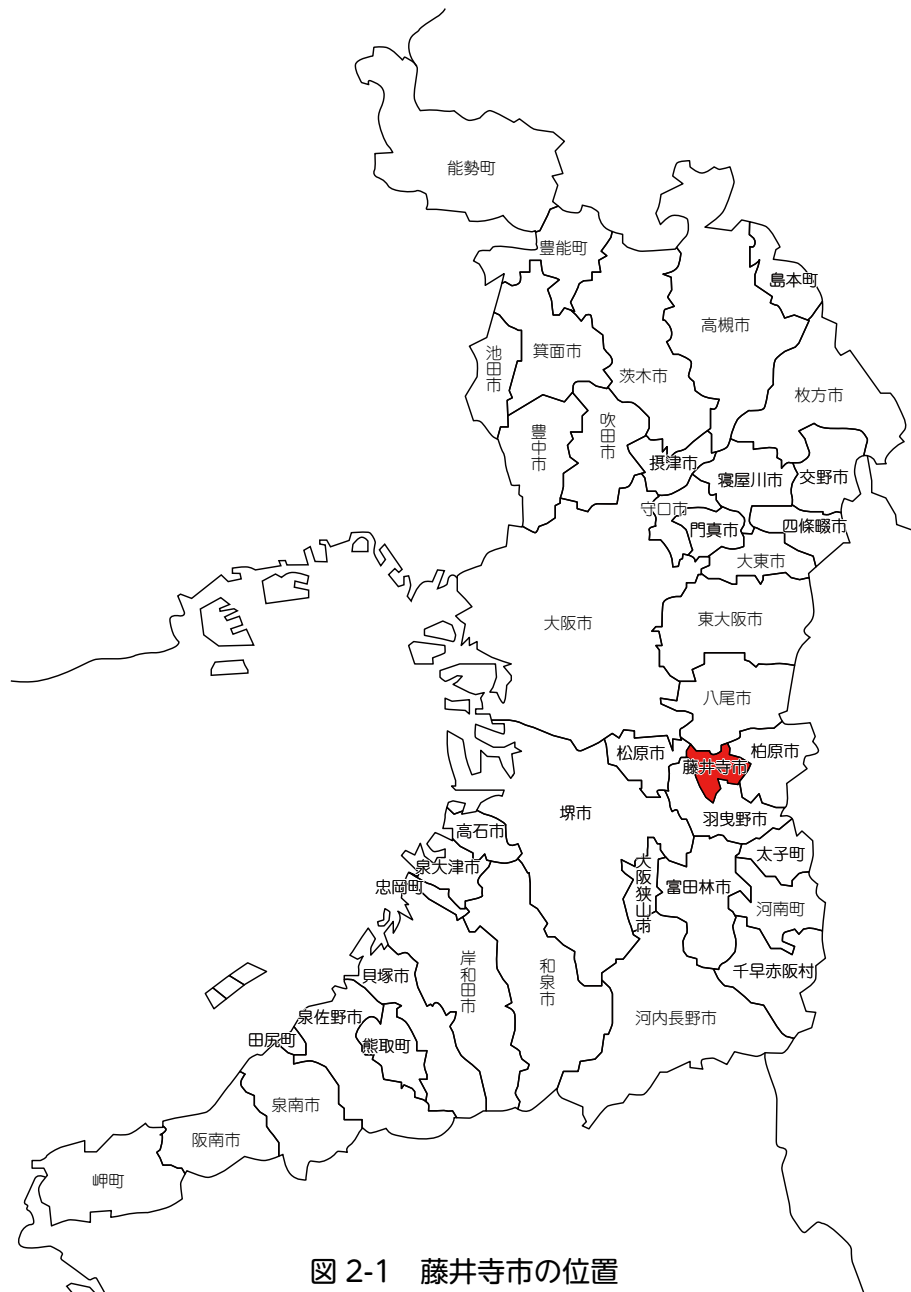
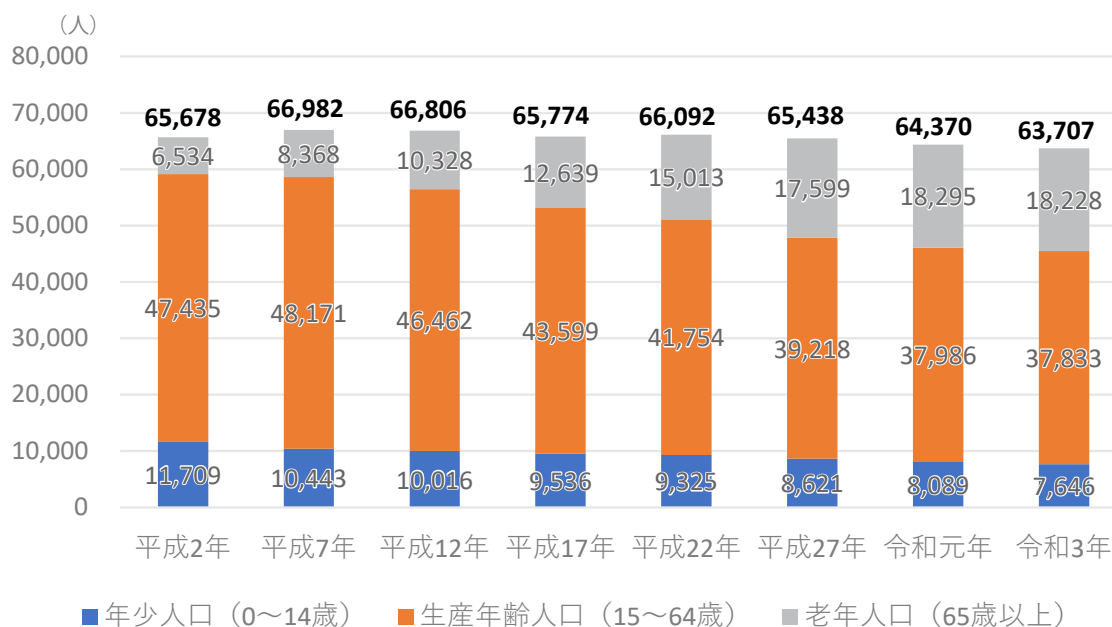


図 2-1 藤井寺市の位置

2-2-3 人口

本市の人口は令和3年の時点で63,707人であるが、平成7年の66,982人をピークにほぼ横ばいからやや減少の傾向である。また、少子高齢化が進んでおり、年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）はともに減少、老年人口（65歳以上）は増加し、全国と同様の少子高齢化の傾向となっており、今後も総人口の減少が予測される。



(人)

	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総合計
平成2年	11,709	47,435	6,534	65,678
平成7年	10,443	48,171	8,368	66,982
平成12年	10,016	46,462	10,328	66,806
平成17年	9,536	43,599	12,639	65,774
平成22年	9,325	41,754	15,013	66,092
平成27年	8,621	39,218	17,599	65,438
令和元年	8,089	37,986	18,295	64,370
令和3年	7,646	37,833	18,228	63,707

図 2-4 藤井寺市の人口推移

(出典：令和元年までは国勢調査、令和3年は藤井寺市のデータを引用)

2-2-4 公共施設の立地状況

藤井寺駅から半径 1km 圏内に市役所、市民総合会館、そしてアイセルシュラホールがある。土師ノ里駅と道明寺駅周辺には市民病院、老人福祉センター、市役所支所が立地している。国道 170 号線沿いには市立図書館、市民総合体育館がある。また、津堂城山古墳に隣接してガイダンス棟の「まほらしろやま」がある。

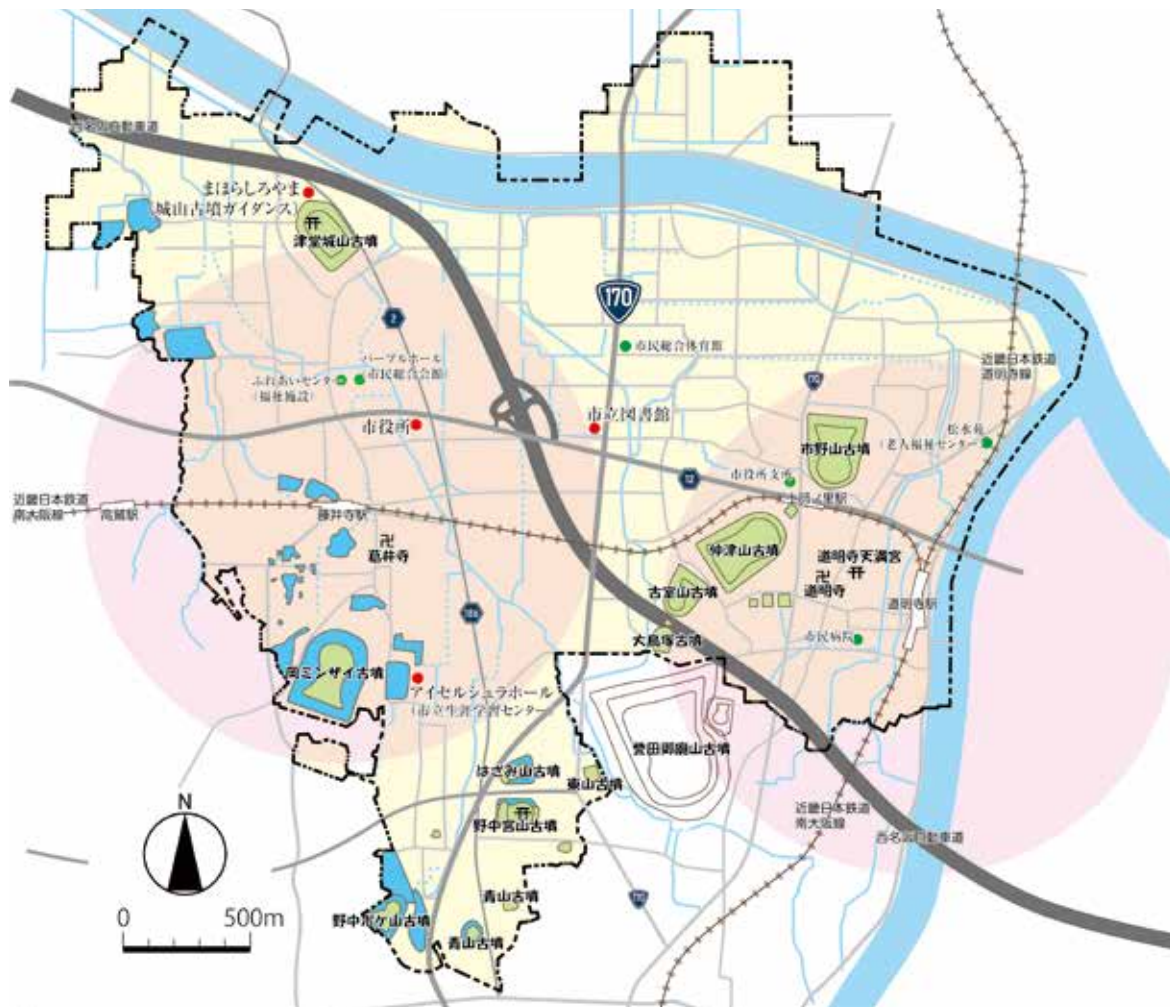


図 2-5 公共施設の立地状況

2-2-5 特産・名産物や藤井寺ゆかりの人物

藤井寺市の特産・名産物などの藤井寺ゆかりの品としては、かねてよりいちじく・小山うちわ・道明寺糰等があるが、最近では地ビールやクラフトコーラが誕生し、新たな特産品として賑わいを見せている。



図 2-6 美陵ビール



図 2-7 河内乃えーる



図 2-8 クラフトコーラ

また、藤井寺市出身またはゆかりのある方で、多方面に影響力がある方を FUJIIDERA ★ AMBASSADOR（観光大使）に任命し、市の魅力発信を行っている。



図 2-9 長谷川 義史氏
絵本作家



図 2-10 古市古墳群おもてなし隊



図 2-11 柳澤 多恵氏
油彩画家



図 2-12 辰巳 ゆうと氏
演歌歌手

2-2-6 ご当地キャラクター まなりくん・みずどりはにわ

藤井寺市の公式キャラクター「まなりくん」は、奈良時代に阿倍仲麻呂らと唐へ渡った、藤井寺市出身と云われる遣唐留学生「井真成（いのまなり）」をモデルとしたキャラクターで、平成17年に一般公募によって選ばれた。現在、故郷である藤井寺市を中心に、さまざまなイベントで活躍中である。

井真成とは、平成16年に中国の西安市郊外で石製の墓誌（亡くなった人の経歴などを刻んで墓に埋葬したもの）が見つかり、その存在が確認された人物である。

また、津堂城山古墳より出土した国の重要文化財である水鳥形埴輪をキャラクター化し、さまざまなPR媒体で使用している。



図 2-13 藤井寺市公式キャラクター「まなりくん」

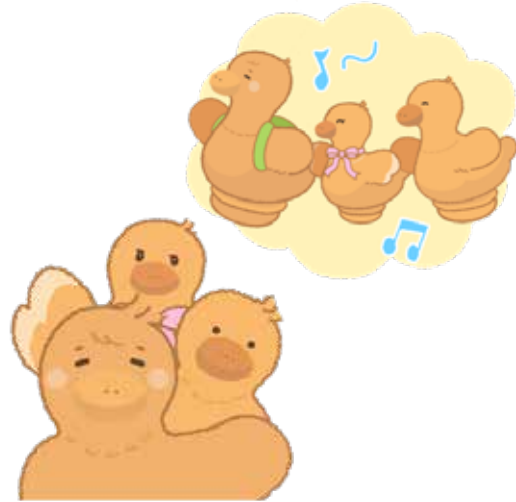


図 2-14 「みずどりはにわ」

2-3 藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布の現状

藤井寺市内には、古市古墳群に関するガイダンス施設・展示施設がある。

史跡城山古墳ガイダンス施設「まほらしろやま」は、展示室で津堂城山古墳を中心とした展示を行っている。同施設は、来訪者の古市古墳群見学拠点のひとつとなっている。

また、岡ミサンザイ古墳（仲哀天皇陵古墳）に近い、アイセルシュラホールの2階では、古市古墳群の展示とともに、藤井寺市の通史展示も行っている。

藤井寺市立図書館1階には展示室があり、重要文化財である修羅（大・小）2つの内、修羅（小）の実物を展示している。また、修羅（大）のレプリカや、古墳の築造風景をあらわしたジオラマを展示している。

史跡城山古墳ガイダンス施設「まほらしろやま」

「まほらしろやま」では、津堂城山古墳から出土した埴輪や、津堂遺跡から出土した同時代の須恵器や土師器を展示している。敷地内には、明治末年に墳丘後円部頂で見つかった長持形石棺のレプリカを展示している。



図 2-15 まほらしろやま建物外観



図 2-16 まほらしろやま室内展示



図 2-17 長持形石棺（レプリカ）

アイセルシュラホール 2階歴史展示ゾーン

古墳時代、古市古墳群をテーマとした展示ゾーンでは、津堂城山古墳出土水鳥形埴輪、西墓山古墳鉄器埋納施設、土師の里 8号墳の主体部に使われた円筒埴輪棺など、古市古墳群を語る上で欠かすことのできない実物の考古資料を展示している。



図 2-18 歴史展示コーナー（通史展示）



図 2-19 水鳥形埴輪（重要文化財）



図 2-20 西墓山古墳鉄器埋納施設



図 2-21 土師の里 8号墳の主体部に使われた円筒埴輪棺

藤井寺市立図書館 1階展示室

三ツ塚古墳の濠から出土した、修羅(小)(重要文化財)と修羅(大)(レプリカ)を展示している。また、古墳の築造風景をあらわしたジオラマも展示している。



図 2-22 修羅（小）（実物、重要文化財）



図 2-23 修羅（大）（レプリカ）



図 2-24 古墳の築造風景をあらわしたジオラマ

図 2-25 (1) 藤井寺市遺跡分布図
(対照表)

藤井寺市内の指定文化財

● 国指定文化財

	名称	分類	所在			
国 宝	A 乾漆 千手観音坐像 (本堂安置)	彫刻	葛井寺			
	B 木造 十一面観音立像 (本堂安置)	彫刻	道明寺			
	C 伝菅公遺品 銀装革帯 玳瑁装牙櫛 牙笏 犀角柄刀子 伯牙弹琴鏡 青白磁円硯		工芸品	道明寺天満宮		
		D 木造 十一面観音立像 (伝菅原道真作)			彫刻	道明寺
		E 木造 聖徳太子立像 太子像胎内一括品			彫刻	道明寺
		F 笹散蒔絵鏡匣 笹散雙雀鏡 (鏡面に金泥の種子あり)			工芸品	道明寺天満宮
		G 葛井寺四脚門 (切妻造、本瓦葺)			建造物	葛井寺
H 水鳥形埴輪 (城山古墳出土)	考古資料	葛井寺				
I 修羅 (小)	考古資料	藤井寺市				
史 跡	古市古墳群	古墳				
	J-1 古室山古墳					
	J-2 赤面山古墳					
	J-3 大鳥塚古墳					
	J-4 助太山古墳					
	J-5 鍋塚古墳					
	J-6 城山古墳					
	J-7 墓山古墳					
	J-8 野中古墳					
	J-9 鉢塚古墳					
	J-10 はざみ山古墳					
	J-11 青山古墳					
	J-12 蕃所山古墳					
	J-13 稲荷塚古墳					
	J-14 東山古墳					
	J-15 割塚古墳					
	J-16 唐櫃山古墳					
	J-17 松川塚古墳					
	J-18 浄元寺山古墳					
	J-19 応神天皇陵古墳外濠外堤					
J-20 仲姫命陵古墳周堤						
K 国府遺跡	遺跡					

■ 大阪府指定文化財

	名称	分類	所在
a	石造 燈籠	工芸品	葛井寺
b	葛井寺金銅宝塔	工芸品	葛井寺
c	脇差 銘秀光	工芸品	道明寺天満宮
d	長持山古墳石棺	考古資料	藤井寺市*
e	北岡遺跡出土 金銅五鈷杵	考古資料	藤井寺市*
f	葛井寺参詣曼荼羅	歴史資料	葛井寺

■ 藤井寺市指定文化財

	名称	分類	所在
g	天神縁起絵扇面貼交屏風	絵画	道明寺天満宮
h	聖観音菩薩立像	彫刻	葛井寺
i	地藏菩薩立像	彫刻	葛井寺
j	阿弥陀如来 及び二十五菩薩像	彫刻	葛井寺
k	石燈籠 康元二年銘	工芸品	道明寺天満宮
l	石燈籠 建徳三年銘	工芸品	黒田神社
m	国府遺跡出土 玦状耳飾り	考古資料	道明寺天満宮
n	国府遺跡出土 装身具	考古資料	藤井寺市
o	国府遺跡出土 玦状耳飾り 及び縄文土器	考古資料	藤井寺市
p	唐櫃山古墳石棺	考古資料	藤井寺市
q	潮音寺北古墳出土 子持ち勾玉	考古資料	藤井寺市*
r	狼塚古墳出土 柵形埴輪 及び木槽樋形土製品	考古資料	藤井寺市*

▲ 国登録有形文化財

▲ 1	藤本家住宅
▲ 2	藤野家住宅
▲ 3	玉手橋
▲ 4	伴林氏神社

※ d,e,q,r に関しては現在、藤井寺市が保管

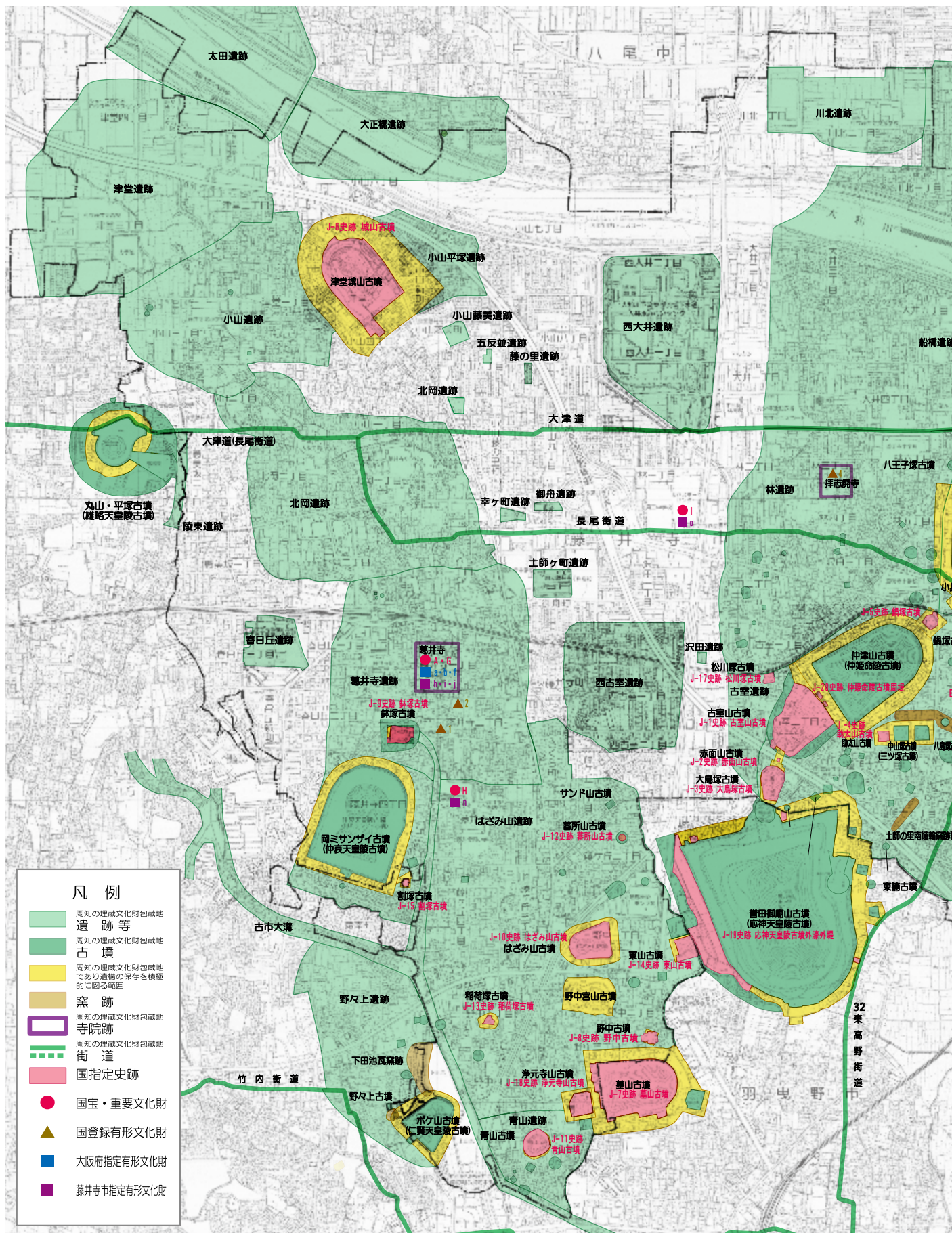
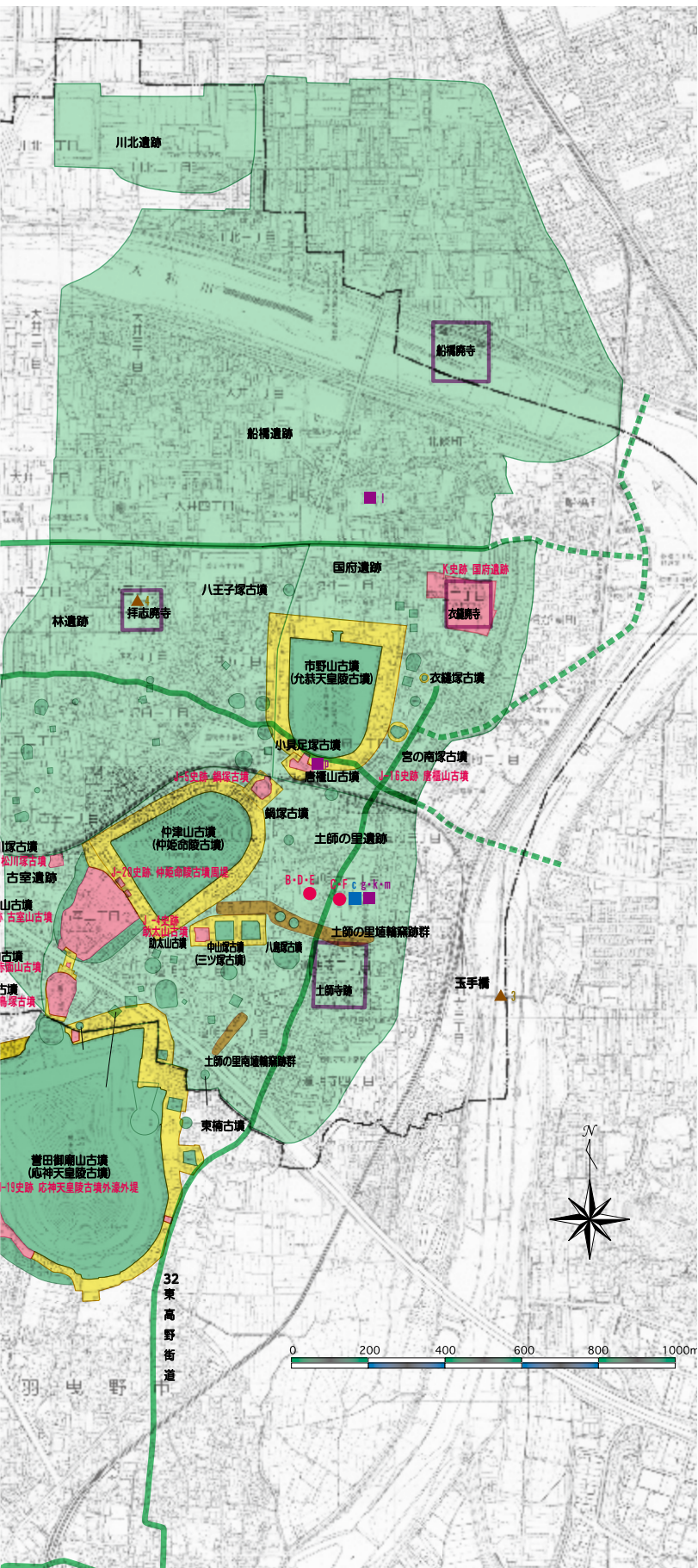


図 2-25 (2) 藤井寺市遺跡分布図



2-4 アイセルシュラホールの現状

2-4-1 施設概要

施設名称	藤井寺市立生涯学習センター（愛称：アイセル シュラ ホール）
開設年月	平成6年7月
敷地・延床面積	敷地面積：5,413.00㎡ 延床面積：4,554.19㎡
設置根拠	藤井寺市立生涯学習センター条例
開館時間	9時00分～21時30分
休館日	月曜日（祝日にあたるときは翌日）、年末年始

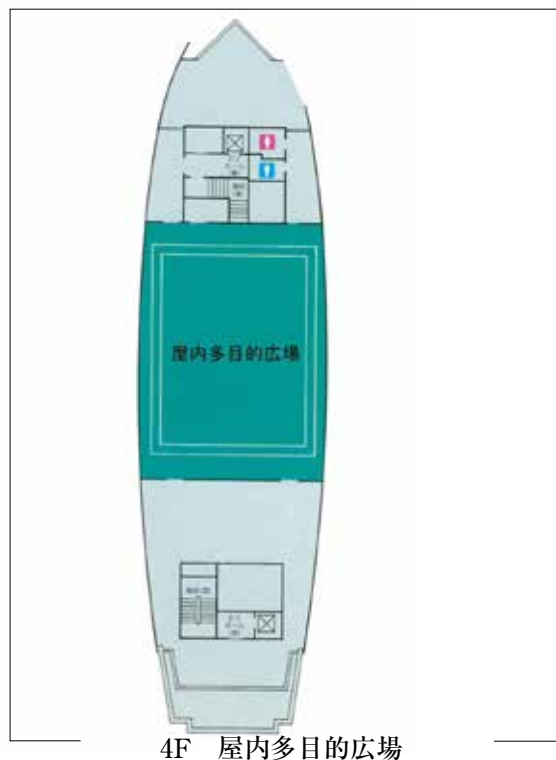
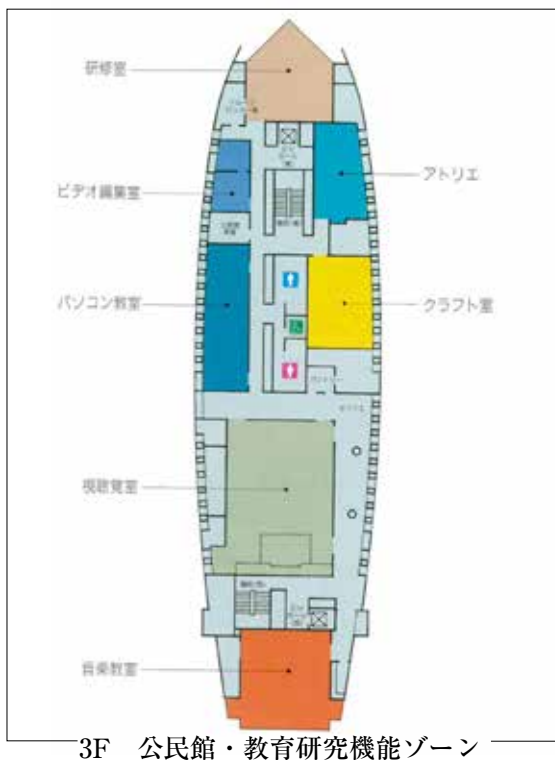
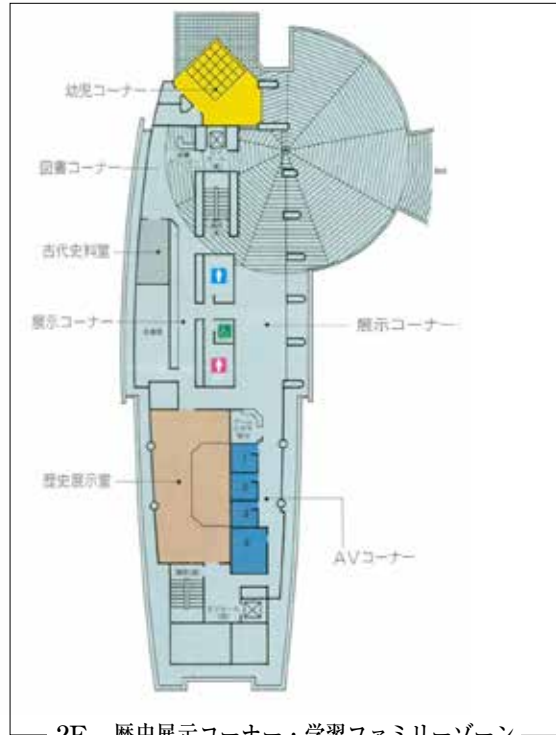


図 2-26 施設配置図

2-4-2 活動状況

世代を問わず学び、遊び、交流しあえる、個性豊かな生涯学習活動や公民館活動を支援できる施設として多くの方に利用されており、各階ではさまざまな活動が行われている。

1階

憩い・集いのゾーン

エントランスホール
住民票等交付コーナー
貸館受付



図 2-27 エントランスホール

展示コーナー

自主学習グループの方などが、絵画、書作、手芸、クラフトなどの作品を発表する展示コーナーが積極的に活用されている。



図 2-28 展示コーナー

表 1 自主学習グループの数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
自主学習グループ数	71	72	66	56	58	57

(※自主学習グループ数は、展示コーナーを使用していないグループが含まれます)

高齢者憩いの場（和室・洋室）

藤井寺市内の 60 歳以上の方が登録制で利用できる。将棋や囲碁など、談笑の場となっている。



図 2-29 高齢者憩いの場（和室）

喫茶コーナー

1 階サロンを利用して、ボランティアスタッフによる喫茶サービスの運営を行っていたが、令和 4 年 3 月末で活動は終了した。



図 2-30 喫茶コーナー

屋外

せせらぎ・噴水

夏期の日中に実施しており、子ども連れの家族を中心に賑わっている。



図 2-31 せせらぎ・噴水

表 2 せせらぎ・噴水の実施日数と利用者数及び一日あたりの利用者数（日・人）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
実施日数	47	50	26	53	53	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
利用者数	2,135	2,498	1,698	2,437	1,988	
一日当たりの利用者数	45	49	65	46	38	

藤の森古墳石室

大阪府藤井寺市野中から移設された横穴式石室の円墳。



図 2-32 藤の森古墳石室

2階

歴史展示ゾーン

藤井寺市内の遺跡から見つかったさまざまな遺物を展示し、旧石器時代から奈良時代までの変遷を学ぶことができる。歴史展示室では「倭の五王の時代」をテーマにした遺物（鉄剣、武具、埴輪）などを展示している。



図 2-33 歴史展示ゾーン

学習ファミリーゾーン

図書の閲覧、貸出を行う図書コーナー、自習室、子どもたちの遊び場として親子でくつろげる幼児コーナー（赤ちゃんの駅）、ビデオやDVDが楽しめるAVコーナーが利用されている。



図 2-34 図書コーナー

3階

公民館・教育研究機能ゾーン

視聴覚室・クラフト室・アトリエ・音楽教室・研修室などがあり、事前にグループ登録した自主学習グループが自発的に活動している。



図 2-35 クラフト室

4階

屋内多目的広場

グラウンドゴルフ、ヨガ、健康教室などの軽スポーツが行われている。



図 2-36 屋内多目的広場

※ 3階、4階は観光拠点化基本構想後も変更なしとする。

2-4-3 利用状況

平成 28～令和 3 年度までの諸室利用状況は下記のとおりである。

表 3 諸室利用者数（人）

階数	室名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
1 階	高齢者憩いの場	9,030	10,255	9,697	8,295	1,271	1,893
	喫茶コーナー	30,891	28,496	26,844	23,037	12,634	11,401
2 階	A V コーナー	20,172	21,413	19,209	20,520	8,812	9,629
	図書コーナー	22,313	21,705	20,722	18,930	12,961	13,516
	会議室	1,716	2,145	2,432	2,610	1,794	1,924
3 階	研修室	4,716	4,669	4,093	3,334	531	1,115
	アトリエ	3,525	3,316	2,752	2,058	668	725
	クラフト室	2,145	1,909	1,666	1,221	874	897
	音楽教室	7,020	7,701	7,799	7,115	4,030	5,161
	視聴覚室	9,624	9,619	8,326	8,544	1,730	3,200
4 階	屋内多目的広場	14,625	15,218	14,066	13,455	9,076	9,900
合計		126,049	126,929	118,260	110,458	55,257	59,979

※令和 2・3 年度は休館期間あり

2-5 課題

アイセルシュラホール活用検討における課題は以下のとおりである。これらの課題を踏まえ、事業活動や施設、展示、管理運営等の各計画を検討する。

2-5-1 建物面

全体

施設と設備の老朽化等

外壁改修は行ったが、地下配管など建物設備の老朽化が見受けられる。

※令和2年度 ESCO 事業により空調、照明 LED、受電設備を改修済。

施設の建築上、電機システム上の問題

リニューアルするにあたり、柱や壁の取り外し等の大規模な改修が難しいため、施設内の空間・内装の見せ方で変化をつけることが望ましい。

また、中央監視室の移設・修繕は費用面で困難である。

ESCO 事業による設置した設備維持について

空調、照明設備は ESCO サービス提供事業者の所有物であり、ESCO 事業により設置した空調、照明設備には配慮が必要である。

※ ESCO (Energy Service Company) 事業とは、ESCO 事業者が省エネ改修をし、全ての経費を省エネによる光熱水費の削減分で賄う事業です。

1 階

憩い・集いのゾーン

施設内は元々暖色系の落ち着いた雰囲気だが、観光拠点として考えた場合、活気が感じられるような明るい空間・内装が求められる。

からくり時計

現在は故障中のため、今後の活用が未定である。

喫茶コーナー

飲食店を誘致等するには、厨房施設が簡素である。

2 階

展示コーナー（南側）

建物の南側に位置し、また一面が窓ガラスで日光が当たるため展示資料への配慮が必要である。

歴史展示室

展示スペースが限られるとともに大型遺物の移動に困難が伴うため、常設展示の内容は恒常的である。展示のリニューアルが求められる。

屋外

温室

設備故障のため現在は使われていない。また、全面ガラス張り仕様のため、現状のままでは、これらを考慮した使用が求められる。

駐車場

一般車両は 21 台（うち身障者用 2 台）のみで、大型車両（観光バスなど）の停車が困難であり、駐車スペースが限られている。また、生涯学習グループの利用によっては満車になる。周辺道路に関しても道路幅が狭く、大型バスの進入については困難である。

2-5-2 運営面

建物の用途について

現在は“生涯学習”のための教育施設であり、継続的に観光等の多面的な活用をする場合は、用途に関して検討する必要がある。

現在の機能について

貸館業務、公民館業務や一部市民課業務もあり、幅広い年齢層の市民が利用しているため、一部機能を変更する場合は、配慮が必要である。

観光案内機能について

商店街内の現観光案内所（ゆめぷらざ）との棲み分けや位置づけの整理が必要である。

2-5-3 その他

市内の展示施設について

市内に古市古墳群関連の展示施設が点在しており、周遊する上で拠点施設を設けることが重要である。

観光案内表記等

藤井寺駅からアイセルシュラホールへ向かう道中に案内板や電柱にサインはあるが、目立ちにくく案内が不十分である。また、アイセルシュラホールから古墳へ向かう際にも同様である。

このため、サインの統一性及び観光案内表記を、改めて検討する必要がある。



図 2-37 目立ちにくい案内



図 2-38 電柱のサイン

インバウンド方策

一部のパンフレットやホームページは多言語化されているが、多言語での観光案内はまだまだ十分に対応できていないことから、さらなる整備が必要である。

第3章

基本理念と方針

3-1 基本理念

世界遺産である古市古墳群の価値をわかりやすく表現し、訪れる方々に「タビマエ」・「タビナカ」・「タビアト」のどのようなシーンにおいても活用される施設かつ、市民にも引き続き愛され、観光客との交流によりさらに発展的に利用される施設をめざす



- ①世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値を表現
- ②古墳ミュージアム（仮称）として訪れる人が楽しめる施設
- ③市民にとってシンボリックな施設であり、市民も楽しみ、市民がもてなす観光拠点

世界遺産を理解する・学ぶにあたり、世界遺産としての価値を確実に来訪者に伝達し、古市古墳群を一層楽しめる施設＝観光拠点とする。



世界遺産 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産としての価値

百舌鳥・古市古墳群は下記の価値により世界遺産に登録されている。

古墳は、列島各地に16万基も存在しているが、その中でも日本古代の古墳文化を代表し、また類まれな物証を提供しているのが、百舌鳥・古市古墳群である。45件の構成資産は、この時代の社会政治的構造、社会的階層差及び高度に洗練された葬送体系を証明している。

百舌鳥・古市古墳群は、古代の東アジアにおける墳墓築造のひとつの典型である。古墳及びその有形な属性である埴輪や濠、葺石を施した幾何学的な段築をもつ墳丘は、この歴史的に重要な時代における社会階層の形成上、顕著な役割を果たした。

以上の価値を支えている3つの要素を具現化し、展示・解説の基本的な軸とする。

属性 a) 密集した多様な古墳

百舌鳥・古市古墳群の2つのエリアに密集する古墳は、多様な墳形と400m以上から20m程度にまでわたる規模のバリエーションを有しており、これらは同地域・同時代に多様な墳墓が営まれた日本列島の古墳の特徴を最も明確に示すものである。

属性 b) 4つの標準化された形式

百舌鳥・古市古墳群の古墳には、前方後円墳・帆立貝形墳・円墳・方墳の4種類がある。これらの形式は、全国各地の古墳の規範となった標準化されたものであり、本資産は古墳の設計や築造技術を牽引する存在である。

属性 c) 入念で独特な葬送儀礼の証左

各古墳の埋葬施設は墳頂から掘りこまれた墓穴の中にしつらえられ、墳丘上面の各所に埴輪や葺石が施されている。墳丘上で葬送儀礼が執り行われ、その舞台として墳丘が飾られたことは日本列島における古墳の大きな特徴であり、百舌鳥・古市古墳群はそれを明確に伝える事例である。

3-2 方針

アイセルシュラホールを観光拠点として、これまで取り組んできたシティプロモーションと合わせて、古市古墳群をはじめ、藤井寺市の魅力を最大限に発信するために持続的かつ実施可能な方針について次章以降にて、その活用案を定める。

また、将来展望として、地域の事業者をはじめ、まちづくり協議会、観光協会や大学等を巻き込んで戦略的な商業・観光を中心とするまちづくりを進め、それに基づくシュラホールの活用・運営体制等を検討する。

〈活用案〉

- 1階・屋外：観光案内機能
- 2階：文化財展示（重要文化財含む）

第4章

必要機能と内容

観光案内機能、文化財展示（重要文化財含む）・世界遺産ガイダンス機能の2つの項目と、現在の既存機能及び観光拠点化後の機能を以下に記す。

4-1 観光案内機能

観光案内機能に関して、1階ビジターセンターと屋外を対象とし、その必要機能と内容を記す。

1階ビジターセンター（エントランス）

フロア名称	現 在	内容等
①ウエルカムラウンジ	生涯学習課 文化財保護課 (世界遺産担当) 事務室	・観光案内所 ・デジタル観光案内板 ・ミュージアムショップ ・マルチコピー機 ・まなりくんコーナー
②情報公開ステーション	エントランス 観光課執務室	・藤井寺に興味・関心を持ってもらえるような工夫を施す ・スクリーンを設置し、常時は藤井寺市や古市古墳群の映像を放映 ・ステージを設け公開講座・観光情報提供等、多目的に使用する ^{※1} ・イベントやトレンドに応じて来館者が来るたびに変化を感じられる場へ ・床面または壁面に航空写真、柱へのラッピングサイン等で、観光案内等の情報を提供する ^{※2}
③フジイデラ屋内マルシェ (カフェ&ワゴン販売)	喫茶コーナー	・物販用テーブルを用意し、地元の飲食店などがお弁当やパン、お菓子、コーヒーなどを提供する（カフェ&ワゴン販売）
④ワークショップスペース	地域安全センター	・地域の事業者や団体、大学等のまちづくりに関わる人々がワークショップや研究等を行う場
⑤展示コーナー	展示コーナー	・自主学習グループの展示 ・市民古墳研究発表の場 ・文化財整理作業公開の場
⑥事務機能	ミーティングルーム	・事務機能のスペースとして活用
⑦図書コーナー兼 レストルーム	高齢者憩いの場（洋室）	・2階にある図書コーナーを1階へ移動 ・図書の閲覧や自習スペースとしても活用 ^{※3}
⑧赤ちゃんの駅	給湯室	・おむつ替えや授乳スペース、またはミルク用のお湯を提供できるスペース
⑨レスト・幼児コーナー	高齢者憩いの場（和室）	・観光客と市民の休憩の場として、幼児コーナーや読み聞かせの場としても活用
⑩文化財発掘調査整理室	文化財発掘調査整理室	・機能に関して現状変更なし

※1 ステージ等、各設備や備品の設置位置については検討が必要である

※2 ラッピング等については床材や壁材等の相性も考慮する必要である

※3 自習スペースについては検討が必要である

屋 外

フロア名称	現 在	内容等
⑪ピロティ	ピロティ	・市民マルシェや屋外イベントなど、多目的な用途に対応 ・来館者を迎える為にモニュメントにもなる修羅（大）（レプリカ）を設置する ^{※4} (過度に風雨にさらされない様、囲いを付ける等の対策をする)
⑫ガーデンテラス	温室	・さまざまなイベントなど多目的に利用できるテラスとする ^{※5} ・周辺環境を利用し、オープンカフェエリアを創出する
⑬藤の森古墳石室	藤の森古墳石室	・現状は柵外からの見学しかできないが、イベント等で内部を公開する等の機会を設ける
⑭シェアサイクルポート	駐輪場の一部（施設駐車場入口に面した道路側）	・機動性の高いシェアサイクルを導入することによって、観光客の移動の利便性を向上させる
⑮駐輪場	駐輪場	・アイセルシュラホール施設入口まで拡張。ただし、延焼ライン（5m）を確保するため、拡張部分には自転車のみ駐輪可とする

※4 修羅（大）（レプリカ）の設置場所については、ピロティを第1案とし、館内を含めさらなる検討が必要である

※5 温室の用途を変更する際は、大規模改修もしくは建て替える必要がある可能性がある

4-2 文化財展示（重要文化財含む）・世界遺産ガイダンス機能

文化財展示（重要文化財含む）に関して、主に2階の北側を対象とし、また、世界遺産ガイダンス機能に関して、主に2階の南側を対象としてその必要機能と内容を記す。

2階 展示施設 古墳ミュージアム（仮称）

	フロア名称	現 在	内容等
⑬	A 歴史展示コーナー	図書コーナー・自習室 歴史展示コーナー（北側）	・古墳時代前史から巨大な古墳づくりについて（公開収蔵・企画展示を含む）
⑭		歴史展示室	・古市古墳群に見られる様々な規模と形の古墳及び古墳に関わる祭祀について
⑮		歴史展示コーナー AV コーナー（受付含む）	・古墳時代より後の時代（古代・中世・近世）の古市古墳群のすがたと現代をつなぐ
⑯	B 世界遺産ガイダンス コーナー	歴史展示コーナー AV コーナー（受付含む）	・世界遺産百舌鳥・古市古墳群の説明及びその価値を表現する
⑰	体験コーナー	歴史展示コーナーの一部	・手軽にできるものから本格的なものまで幅広い体験メニューを設ける
⑱	展望コーナー	幼児コーナー 赤ちゃんの駅	・古市古墳群と藤井寺市内を一望できるコーナー ・カウンターを設置しカフェ要素を追加 ・気軽に利用できるように土足可能とする
⑲	レストコーナー	井真成展示コーナー	・展示と展示の合間の休憩スペースとする
⑳	企画展示コーナー	団体室	・企画展示等を行う
㉑	観光ボランティア控室	団体室	・ボランティアの方々の控室とする

4-3 その他

現在の既存機能及び、観光拠点化後の機能を以下に記す。

	既存機能	観光拠点化後の機能
1階	・生涯学習課執務室 ・文化財保護課世界遺産担当執務室	・ウェルカムラウンジ
	・ミーティングルーム	・事務機能
	・観光課執務室	・情報公開ステーション
	・住民票等交付コーナー	・マルチコピー機（ウェルカムラウンジ内）
	・展示コーナー	・展示コーナー
	・高齢者憩いの場（和室）	・レスト、幼児コーナー
	・高齢者憩いの場（洋室）	・図書コーナー 兼レストルーム
	・喫茶コーナー	・フジイデラ屋内マルシェ（カフェ&ワゴン販売）
	・文化財発掘調査整理室	・変更なし
	・地域安全センター	・ワークショップスペース
	・健康情報ブース	・物品倉庫
	・からくり時計（休止中）	・モニュメントとしての活用を検討
	屋外	・駐車場
・駐輪場		・駐輪場（アイセルシュラホール施設入口まで拡張） ・現状の駐輪場の一部（施設駐車場入口に面した道路側）にシェアサイクルポートを設置
・ピロティ		・ピロティ
・温室		・ガーデンテラス
・フォトスポット		・変更なし
・せせらぎ		・変更なし
・噴水		・変更なし
・藤の森古墳石室		・変更なし
2階	・歴史展示コーナー（文化財展示）	・A 歴史展示コーナー（公開収蔵・企画展示含む）
	・図書コーナー	
	・自習室	
	・展示コーナー	・B 世界遺産ガイダンスコーナー
	・AVコーナー	・体験コーナー
	・幼児コーナー	・展望コーナー
	・赤ちゃんの駅	
	・団体室	・企画展示コーナー、観光ボランティア控室
・井真成展示コーナー	・レストコーナー	

第5章

ゾーニング

第4章の必要機能と内容を踏まえ、1階・屋外・2階のゾーニング案を次項以降に記す。

ゾーニング案に記載されている機能一覧

1階

- ① ウェルカムラウンジ
- ② 情報公開ステーション
- ③ フジイデラ屋内マルシェ（カフェ&ワゴン販売）
- ④ ワークショップスペース
- ⑤ 展示コーナー
- ⑥ 事務機能
- ⑦ 図書コーナー兼レストルーム
- ⑧ 赤ちゃんの駅
- ⑨ レスト・幼児コーナー
- ⑩ 文化財発掘調査整理室

屋外

- ⑪ ピロティ（修羅（大）（レプリカ））※
※ 修羅（大）（レプリカ）の設置場所については、ピロティを第1案とし、館内を含めさらなる検討が必要である
- ⑫ ガーデンテラス
- ⑬ 藤の森古墳石室
- ⑭ シェアサイクルポート
- ⑮ 駐輪場

2階

- ⑯～⑲ **A** 歴史展示コーナー（公開収蔵・企画展示含む）
- ⑲ **B** 世界遺産ガイダンスコーナー
- ⑳ 体験コーナー
- ㉑ 展望コーナー
- ㉒ レストコーナー
- ㉓ 企画展示コーナー
- ㉔ 観光ボランティア控室

1階 ビジターセンター



⑭シェアサイクルポート

⑮駐輪場

修羅(大) (レプリカ)
設置場所 (案)

⑪ピロティ

屋外

⑬藤の森古墳
石室

温室

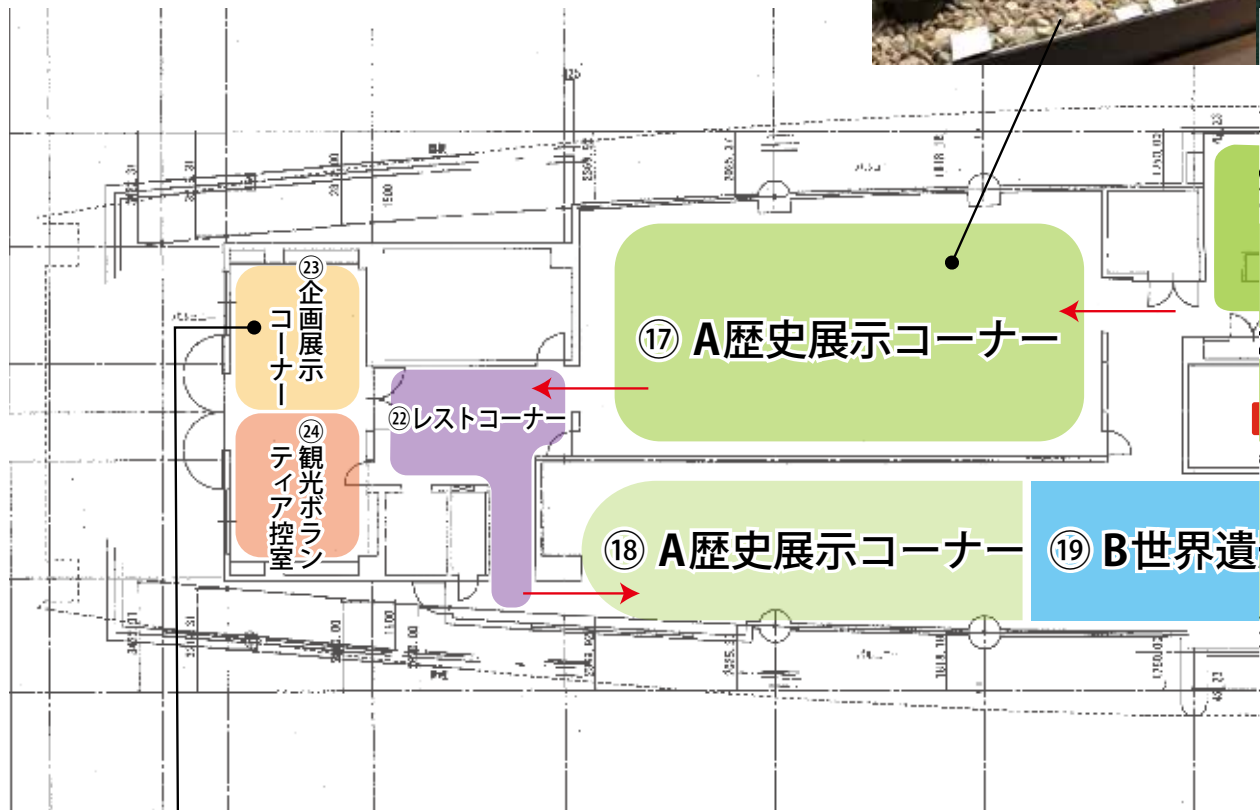
⑫ガーデン
テラス





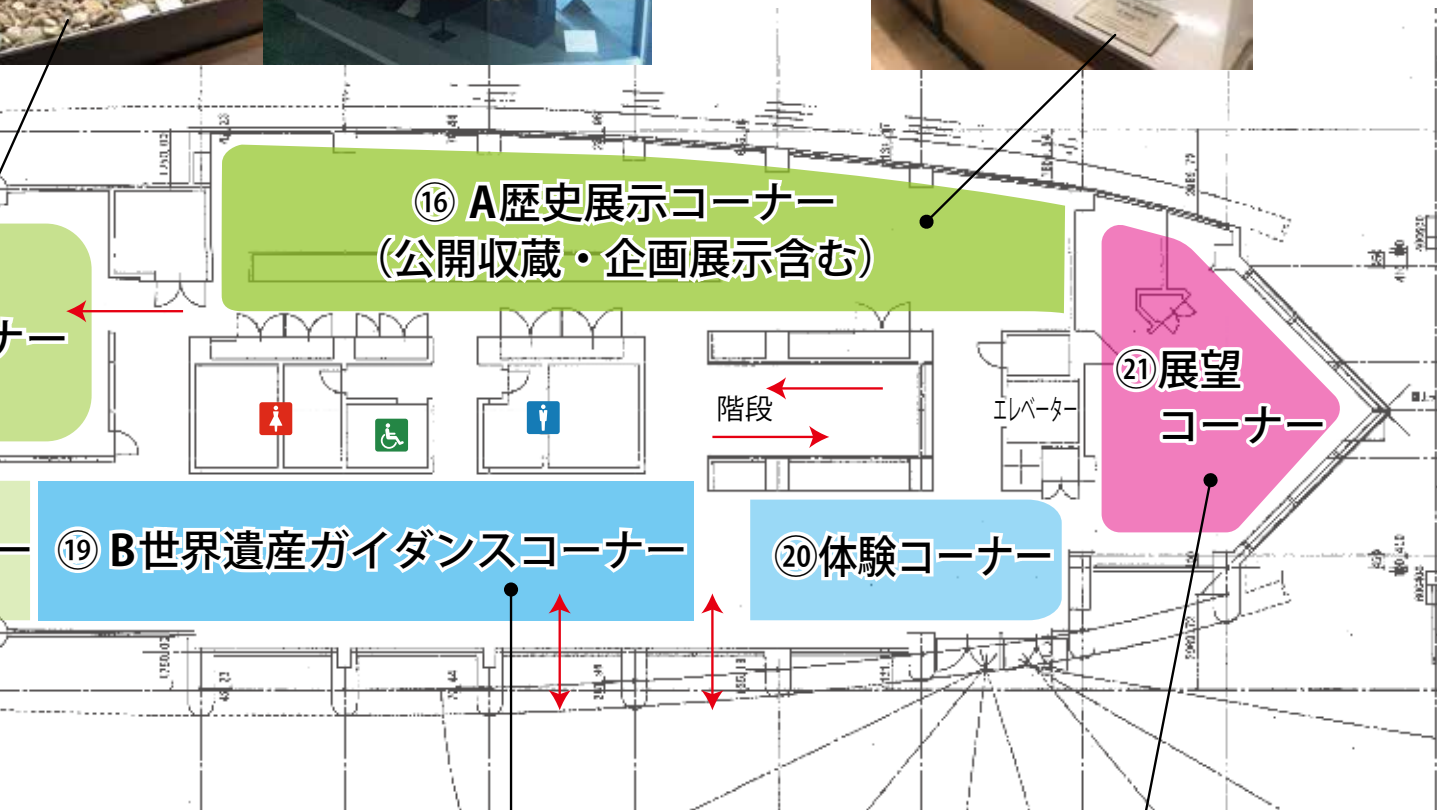
2階 展示施設

古墳ミュージアム（仮称）

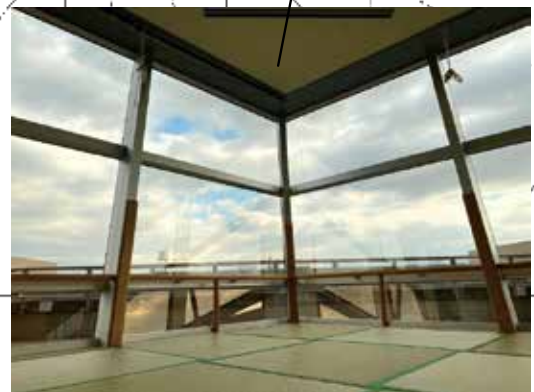
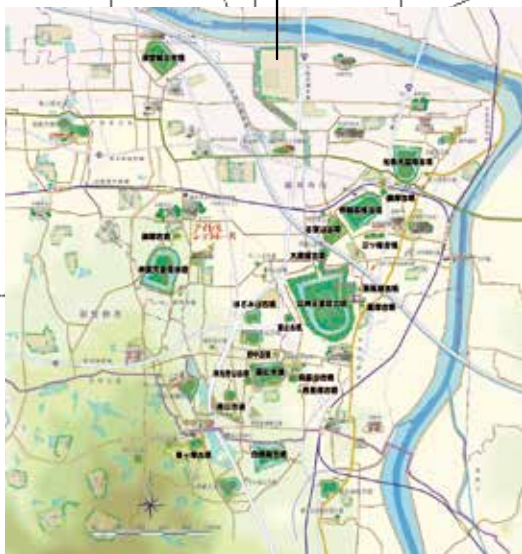


世界遺産 World Heritage Site of Osaka
百舌鳥・古市古墳群
Mozu-Furuichi Kofun Group

※展示物については予定です。



Heritage Site of Osaka
古市古墳群
Furui Kofun Group



第 6 章

観光案内計画

基本理念にある「『タビマエ』・『タビナカ』・『タビアト』」のどのようなシーンにおいても活用される施設。かつ、市民にも引き続き愛され、観光客との交流によりさらに発展的に利用される施設をめざす」にあたり、アイセルシュラホールにおける観光案内計画について、シーンごとの役割を記す。また、併せて市民と観光客との交流の創出、アイセルシュラホール周辺のサイン及び動線計画について記す。

6-1 アイセルシュラホールにおける観光案内計画

「タビマエ」・「タビナカ」・「タビアト」のシーンごとにおけるアイセルシュラホールの役割、さらには、それぞれの役割の具体的な案内方法について記す。

タビマエ

プロモーション事業等誘客施策により来館された観光客が古市古墳群等の観光スポットを周遊する前に、情報収集や体験を通してワクワク感を高めていただくとともに、事前に古市古墳群をはじめとした観光資源の情報を得ることでより充実した旅へと導く。

また、通りがかりや他目的で来館された市民にも興味・関心をもってもらえるような仕掛けづくりを行う。

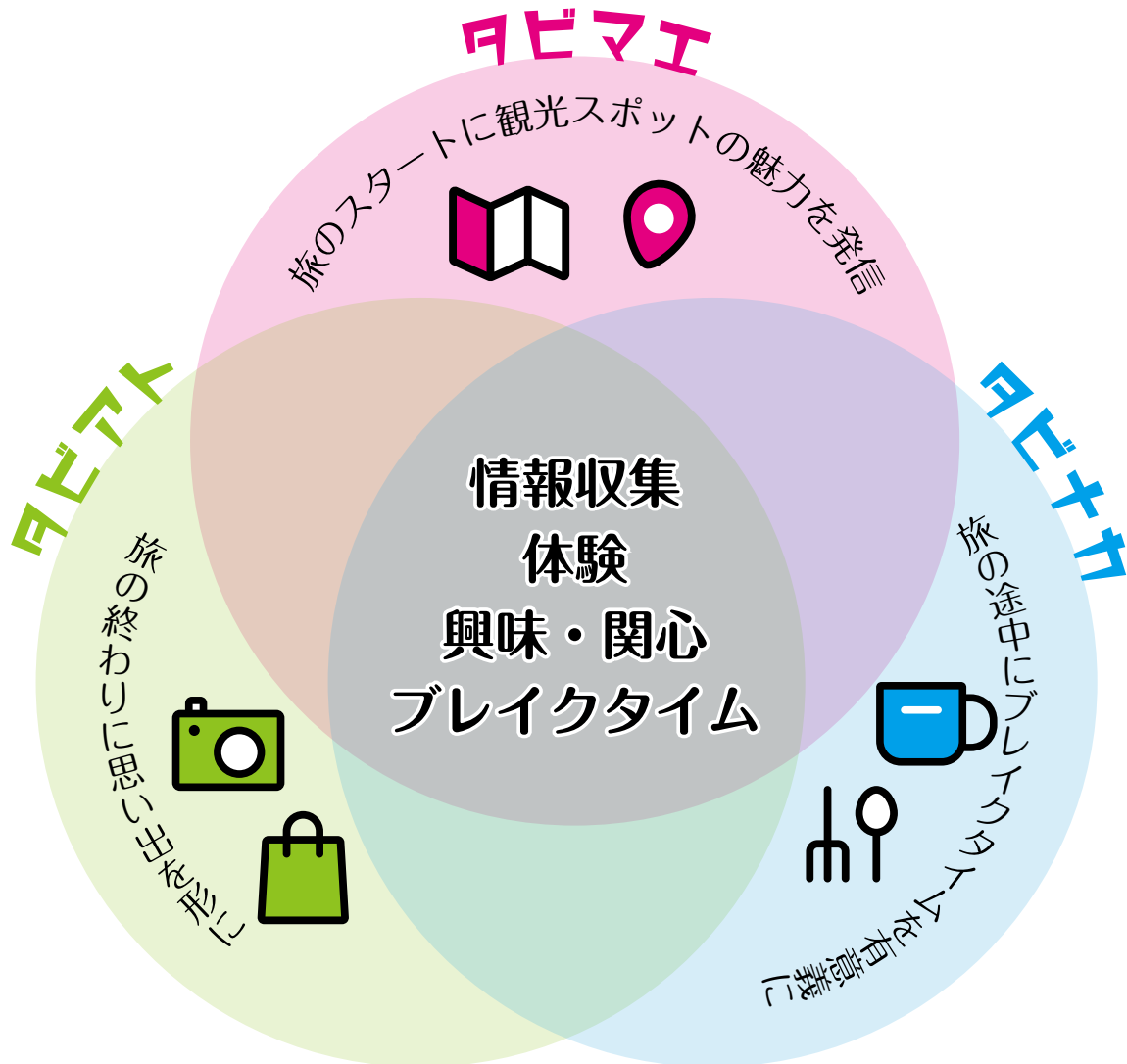
タビナカ

観光客が古市古墳群等の観光スポット周遊の途中で立ち寄り、休憩や食事、体験を通してくつろげる空間としての非日常感を味わっていただく。また、展示やガイドンスにより、先に訪れた観光スポットの情報を定着させるとともに、これから訪れる場所をより一層楽しんでもらえるような工夫を施す。

タビアト

観光客が古市古墳群等の観光スポット周遊後に立ち寄り、休憩や食事、体験、お土産の購入を行っていただくことで旅の満足感にプラスアルファを与える。また、展示やガイドンスにより、訪れた古墳をはじめとした観光資源の情報を反芻して余韻を楽しんでもらうことで、リピート利用につなげる。

アイセルシュラホールにおけるシーンごとの役割イメージ



興味・関心

- 現温室を多目的に利用できるガーデンテラスとすることで、キッチンカーの展開等の周辺環境と合わせたにぎわいづくりを演出する。
- ピロティにインパクトのある修羅（大）（レプリカ）を設置し、入館前のワクワク感を高める。
- 情報公開ステーションにて、映像コーナーを設け、プロモーション動画等の導入コンテンツを放映することで観光客や市民の興味・関心を引くとともに、藤井寺市の魅力を存分に伝える。さらに床面または壁面への航空写真の装飾、柱へのラッピング等の施工により観光拠点としての世界観を表現する。
- イベント時や展示コーナーが使用されていない状況においては、展示コーナーを文化財整理作業公開の場として活用し、観光客及び市民に普段見ることのできない作業風景を見学してもらうことで特別感を演出する。
- 現地域安全センターをワークショップスペースに改装し、地域の事業者や団体、大学等のまちづくりに関わる人々がワークショップや研究等を行う。
- シェアサイクルポートの設置により、観光客がアイセルシュラホールから各古墳や観光スポットに足を運べるようにする。

情報収集

- ウェルカムラウンジ内観光案内所にて各種パンフレットやスタッフによる案内にて情報を提供するとともに、ガイドの申し込み受付を行い、観光客の旅をサポートする。
- デジタル観光案内板により常時最新の情報を提供し、また多言語案内を可能とすることでインバウンド需要にも対応する。
- 文化財展示室及び世界遺産ガイダンスコーナーでは、あらゆる層に届くよう、単なる遺物の展示に留まらず、実物、レプリカ、映像等、さまざまな工夫を施し、古市古墳群の歴史的、世界遺産としての価値はもとよりその背景のストーリーを伝える。

体験

- 2階に設ける体験コーナーにおいて、手軽にできるものから本格的なものまで幅広い体験メニューを設け、ここでしか体験できない特別感を演出することによって、旅の充実を図る。また、その担い手を地元の観光ボランティアが行うことで、市民と観光客との交流を図る。

休憩・食事

- 現高齢者憩いの場を改装した図書コーナー兼レストルーム及び幼児ルームにおいて、観光客、市民ともに幅広い世代が図書を介してくつろげるスペースを提供する。
- 現喫茶コーナーを、地元の飲食店などがカフェやワゴン販売にて飲食物を提供するフジイデラ屋内マルシェとすることで、その雰囲気を残しつつ、よりにぎわいのある空間として再構築する。
- 屋外エリアにおいて、ガーデンテラスやその周辺環境を利用し、オープンカフェエリアを創出する。

お土産購入

- ウェルカムラウンジ内にミュージアムショップを設け、ここでしか手に入らないオリジナルグッズや地域物産を提供し、旅の満足感にプラスアルファを与える。
- 各種体験によって観光客自らが制作したものをそのままお土産として持ち帰っていただくことで、旅の記憶の定着を図る。
- 観光客が身軽に旅を楽しんでもらえるよう、荷物預かり機能を検討する。

6-2 市民と観光客との交流の創出

アイセルシュラホールにおける市民と観光客との交流を創出するための具体的な方法について記す。

- 地元観光ボランティアの役割として、古墳周遊におけるガイドの他、新たにアイセルシュラホールにおける文化財展示の解説や各種体験の運営、さらには市民や観光客の研究、学習に対する補助等を行うことで、市民と観光客との交流の中心的な役割を担う。
- フジイデラ屋内マルシェの運営を地域事業者が担うことで、地域産品を提供するとともに、自由な発想による民間活力を活かし、シェアキッチンの導入やテナント誘致等を行い、食を通して市民と観光客との交流を図る。
- 地域の事業者や団体、大学をはじめ、まちづくりに関わる人々にワークショップや研究の場を提供するとともに、学生をはじめとした若い世代の方々の参画を促し、その成果及び過程が観光客のより充実した旅につながるしくみづくりを行う。
- 展示コーナーにおいて、引き続き自主学習グループの展示の場として活用するとともに、市民や大学等の研究活動の発表の場としても活用することで、作品等の成果品を通して市民と観光客との交流を図る。
- 各レストコーナーを誰もが自由にくつろげる空間とすることで、市民、観光客に関わらずあらゆる層の利用を促し、にぎわいづくりを演出する。

6-3 アイセルシュラホール周辺のサイン及び動線計画

アイセルシュラホールにどのように誘導するのか、また、アイセルシュラホールからどのように案内するのかは観光拠点施設として非常に重要なタスクである。後者は、前述の「6-1 アイセルシュラホールにおける観光案内計画」において記してあるように、施設内におけるさまざまな案内により補完することが可能である。しかし、アイセルシュラホールへどのように誘導するのかという課題に対しては、プロモーション事業等誘客施策の他、施設周辺のサインが非常に重要である。

現状、アイセルシュラホール周辺のサインについては、第2章の現状と課題でも触れたように、案内板や電柱にサインはあるが、目立ちにくく案内が不十分である。これらの原因のひとつとして、デザイン等の仕様に統一性がないことや数が少ないことがあげられる。同時に、現状のサインは多言語表記に対応していないものもあり、インバウンド対策のための多言語表記も求められる。

これらを解決するため、アイセルシュラホールへの誘導において最も主要なルートである近鉄藤井寺駅からの案内についてサイン計画案を記すこととする。また、現行の古市古墳群のモデルルートに関しても見直す必要がある。



図 6-1 QRコードによる多言語表記の例：奈良県奈良市



図 6-2 古市古墳群ウォーキングマップ
(古市古墳群世界遺産連絡会議、2019)



図 6-3 大阪府藤井寺 MAP

6-3-1 想定される主要ルート

近鉄藤井寺駅からアイセルシュラホールまでは、下記ルートが想定される。また、タビナカ・タビアトを考慮し、ルート案内図には双方向の矢印で記す。



ルート1 近鉄藤井寺駅南出口から線路沿いに東に進む。



ルート2 藤井寺一番街商店街を南に進む。



ルート3-1 商店街を抜け、葛井寺西門（重要文化財「四脚門」）より葛井寺境内を通り、南大門より参道を南に進む。

ルート3-2 商店街を抜け、左手に葛井寺西門（重要文化財「四脚門」）、右手に辛國神社の参道を見ながら南に進み、藤井寺西小学校南東の交差点を南東に進む。

※ルート3-2では、辛國神社からアイセルシュラホールまでの道中が間延びしてしまうため、辛國神社参拝のうえ、ルート3-1に誘導したい。



ルート4 ルート3-1及び3-2のどちらも、藤井寺共同墓地の北にある交差点で合流し、交差点から南に直進すると左手にアイセルシュラホールが見える。

6-3-2 主要ルート上における案内

主要ルート上における案内をスポットごとに記す。

④ 近鉄藤井寺駅

- 【図①】 近鉄藤井寺駅改札を出ると正面の、券売機横にバスのデジタル時刻表の上に「葛井寺」の案内が掲示されているが、同様に、改札を抜けてすぐ目につく場所に、「アイセルシュラホール」の案内が必要と考える。
- 【図②】 南出口方面の駅構内には、デジタルサイネージの藤井寺駅周辺案内図があり、その横の掲示板に「観光案内所ゆめぷらざ」へ誘導するポスターを掲示しているが、スペースを活用し、「アイセルシュラホール」への誘導を行う必要がある。
- 【図③】 南出口から駅を出るとすぐに藤井寺市案内板があり、駅南側の主要スポットを紹介している。パンフレットケースのさらなる活用を行いたい。



図①



図②



図③

㊦ 商店街、観光案内所ゆめぷらざ

- 【図④】 藤井寺一番街商店街の入口アーケードには、「葛井寺観音参詣道」とあるが、同様に世界遺産のまちをPR する必要がある。
- 【図⑤】 観光案内所機能の移転後も引き続き地域情報の発信を行い、アイセルシュラホールへの案内を行う。
- 【図⑥】 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」ののぼりが数本あるが、商店街を挙げての世界遺産のまちをPR し、同時にアイセルシュラホールへの案内を行う必要がある。
- 【図⑦】 アーケード下案内出口にはより直接的なアイセルシュラホールへの誘導が必要と考える。



図④



図⑤



図⑥



図⑦

㊧ 葛井寺、辛國神社

- 【図⑧⑨】 藤井寺駅から葛井寺及び辛國神社まで来られて帰られる方々に、もう一步足を延ばしてアイセルシュラホールまで来てもらうためには、寺社の掲示板等を活用し動線の分断を防ぐ案内が必要である。また、推奨するルート3-1 への誘導も行いたい。



図⑧



図⑨

【図⑩⑪】 葛井寺南大門から㊦地点までの約 200m に渡って案内がないことから、南大門を出てすぐのところ、もしくは参道の間地点にある交差点付近に景観を損なうことのない図⑬のような誘導表示板が必要と考える。



図⑩



図⑪

㊦ 藤井寺西小学校南東交差点付近

【図⑫⑬】 藤井寺西小学校南東に藤井寺市案内板があり、駅南側の主要スポットを紹介している。パンフレットケースを設置するなどさらなる活用を行いたい。



図⑫



図⑬

㊧ 藤井寺共同墓地北交差点付近

【図⑭⑮】 ルート3-1 及び 3-2 のどちらの場合もこの位置で合流することから、アイセルシュラホールへの誘導上非常に重要な地点である。現状、図⑮の誘導表示板が立っており現状維持とする。



図⑭



図⑮

第 7 章

文化財展示計画

第7章では、基本理念を基にしながら展示計画の考え方を明記する。その展示計画の考え方に沿って展示全体の構成を記し、これを文化財展示計画とする。

7-1 展示計画の考え方

基本理念を基にしながら展示計画の考え方について記す。

世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値を表現

①歴史展示コーナーと、世界遺産と藤井寺市の紹介コーナーの全2コーナー構成で、世界遺産百舌鳥・古市古墳群を多面的なテーマで紹介

- 来館者が、世界遺産としての古市古墳群の価値を知る・学ぶにあたり、世界遺産としての価値を確実に来訪者に伝達し、古市古墳群を一層楽しめる施設をめざす。
- 古市古墳群の成立から、世界遺産百舌鳥・古市古墳群として現在にいたるまでの展示を展開することで、古市古墳群の価値や現在とのつながりを見られるようにする。
- 展示を見た後に、アイセルシュラホールから実際に古市古墳群へ足を運ぶ動機付けになるような展示を展開する。

②来館者・市民参加型の展示・活動の在り方を探求

- 展示室内に体験コーナーを設け、体験を通して来館者が古市古墳群について、より深く学べる場所を設ける。
- ボランティアや市民の参画を得ながら、ボランティアによる展示解説や、古墳の市民研究の場としても活用し、ともに展示をつくる試みをめざす。

7-2 展示の全体構成

「A 歴史展示コーナー」「B 世界遺産ガイダンスコーナー」の2つの展示コーナーをメインに、アイセルシュラホール2階全体を古墳ミュージアムととらえ、世界遺産百舌鳥・古市古墳群の出土遺物やレプリカ、グラフィックパネル、模型などをそれぞれの展示コーナーのテーマに沿うように展示し、基本理念に基づいた展示空間を演出する。

また、古墳ミュージアムとしての展示内容を充実させることで、世界遺産百舌鳥・古市古墳群について興味を持ち、より深く知ること古市古墳群と藤井寺市内を楽しく巡ることができるような展示構成を行い、訪れた人の満足度の向上を図る。

7-3 各展示コーナーの展開

現在のアイセルシュラホール2階部分は、一部を除いて文化財（重要文化財も含む）を展示するために建設された建築物ではないために、（仮称）古墳ミュージアムとして展示空間の機能を有する施設にするためにはさまざまな改修が必要である。以上の条件を踏まえ、以下に各展示コーナーの展開を記す。

A 歴史展示コーナー

現在の2階の図書コーナー・自習室・歴史展示コーナー（北側）にて展開し、4つのエリアに分ける（公開収蔵・企画展示含む）。

A-1 古市古墳群へようこそ！（展示エントランス）

A-2 古市古墳群成立前史（旧石器時代～古墳時代前期）（スポット展示）

A-3 巨大な古墳づくりに関わった人々（公開収蔵・企画展示含む）

※公開収蔵展示を行うにあたり、以下の条件が求められる

- ①広いスペースが確保できること
- ②密閉された空間であること

現在の歴史展示室にて展開し、2つのエリアに分ける。

A-4 古墳の葬送儀礼と埴輪の世界

※西墓山古墳鉄器埋納施設については、

展示の移設が難しいため、見せ方の工夫が求められる。

A-5 大小さまざまな形の古墳にあらわされた当時の社会構造

現在のAVコーナー（受付含む）・歴史展示コーナー（南側）にて展開し、3つのエリアに分ける。

A-6 その後の古市古墳群（古代・中世・近世）

B 世界遺産ガイドスコーナー

B 世界遺産百舌鳥・古市古墳群

7-4 その他の展示・空間利用等

アイセルシュラホール2階全体を（仮称）古墳ミュージアム化し、より充実した空間にするにあたり、その他の展示・空間利用について記す。また、アイセルシュラホールの内外をつなぐしくみについても記す。

その他展示

- 企画展示コーナー
年に数回、企画展示を行う

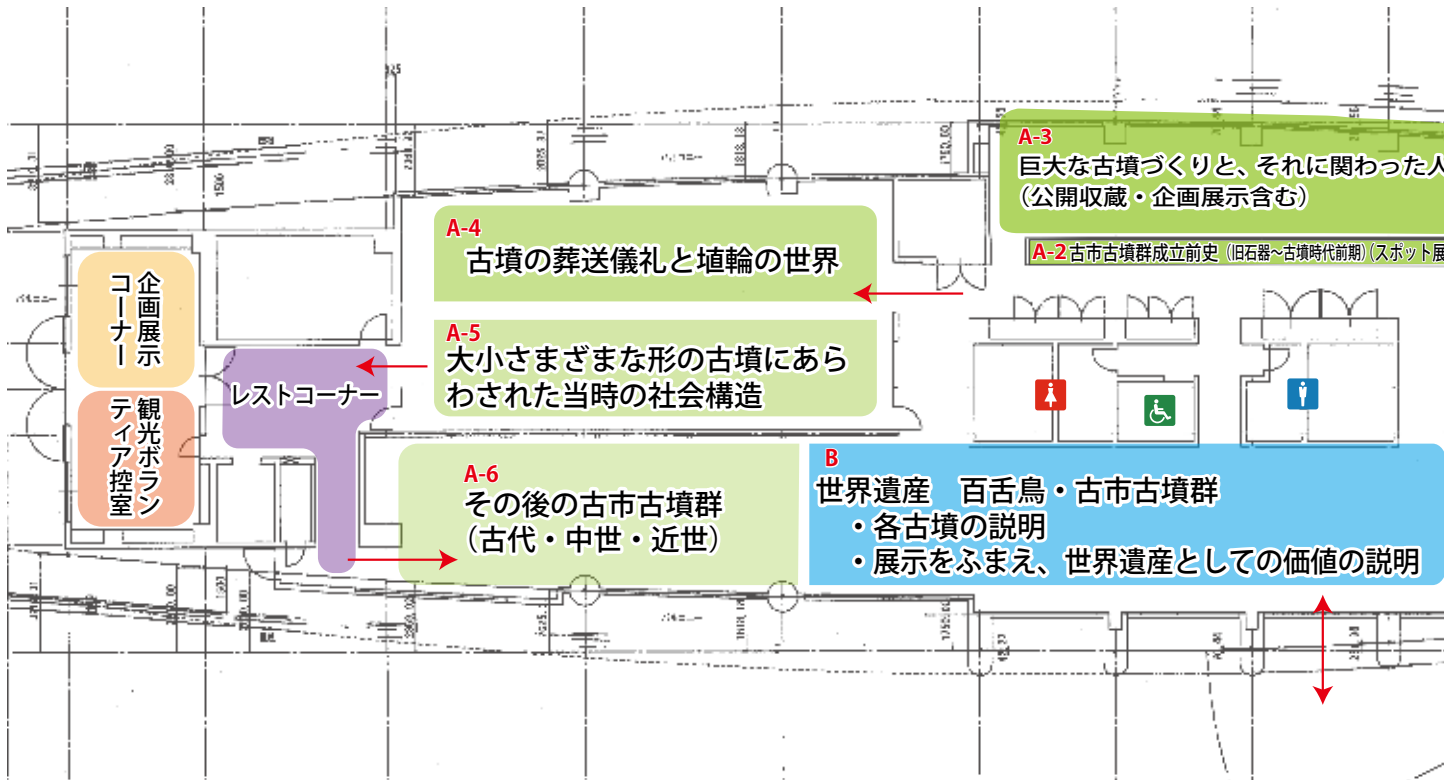
その他空間

- 展望コーナー
現幼児コーナーを展望コーナーとし、古市古墳群や藤井寺市内を一望できる空間とする
飲食可能とし休憩スペースとする
- レストコーナー
展示と展示の合間の休憩スペースとする
- 体験コーナー
手軽にできるものから本格的なものまで幅広い体験メニューを設ける

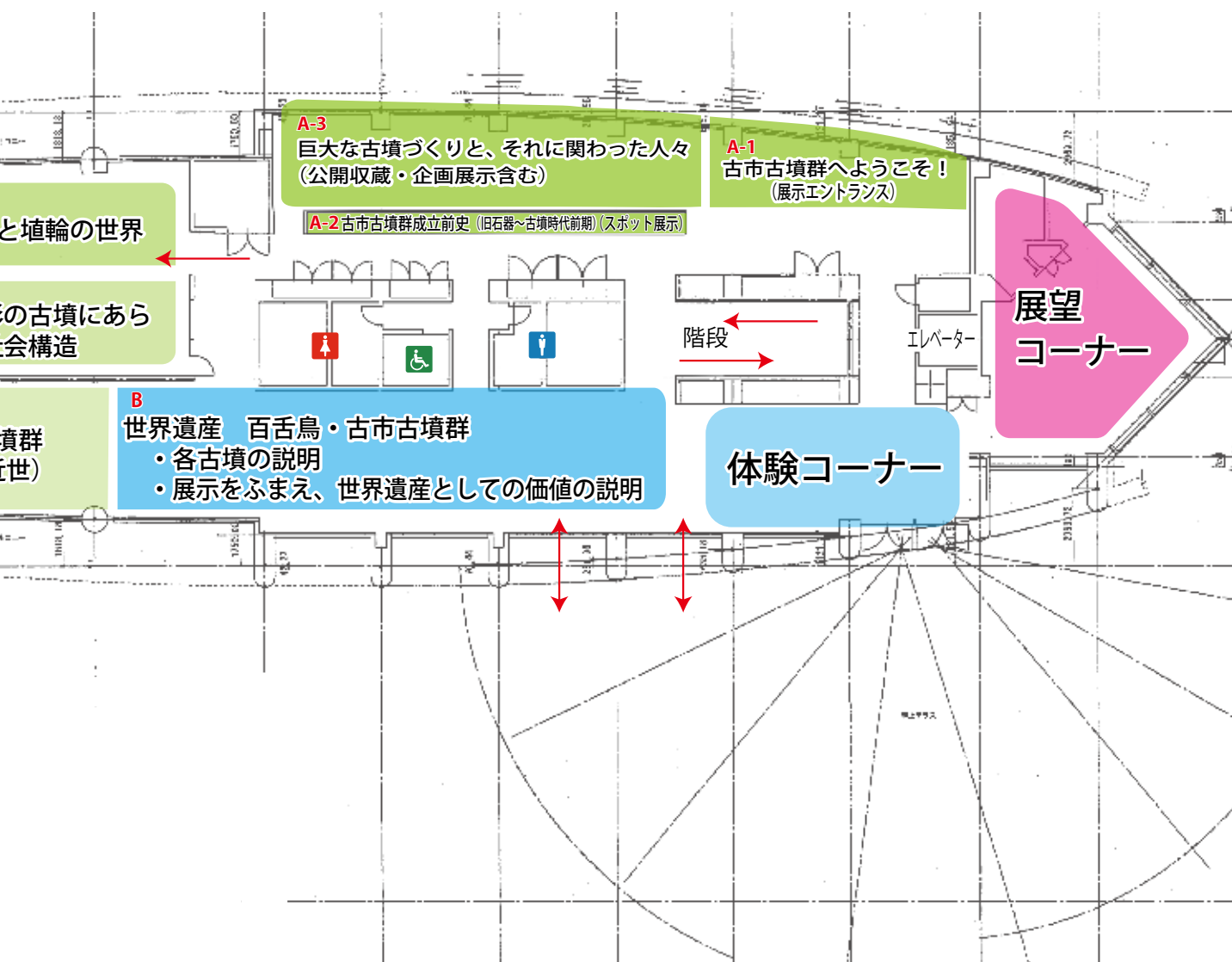
アイセルシュラホールの内外をつなぐしくみ

- 展示でまかなえない部分をボランティアガイドが補足することで、情報コンテンツとして特異性のあるものが提供できる
- 各古墳へ誘導するような解説パネルや、きれいに古墳が撮れる撮影スポットを紹介する

2階 展示施設 古墳ミュージアム（仮称）



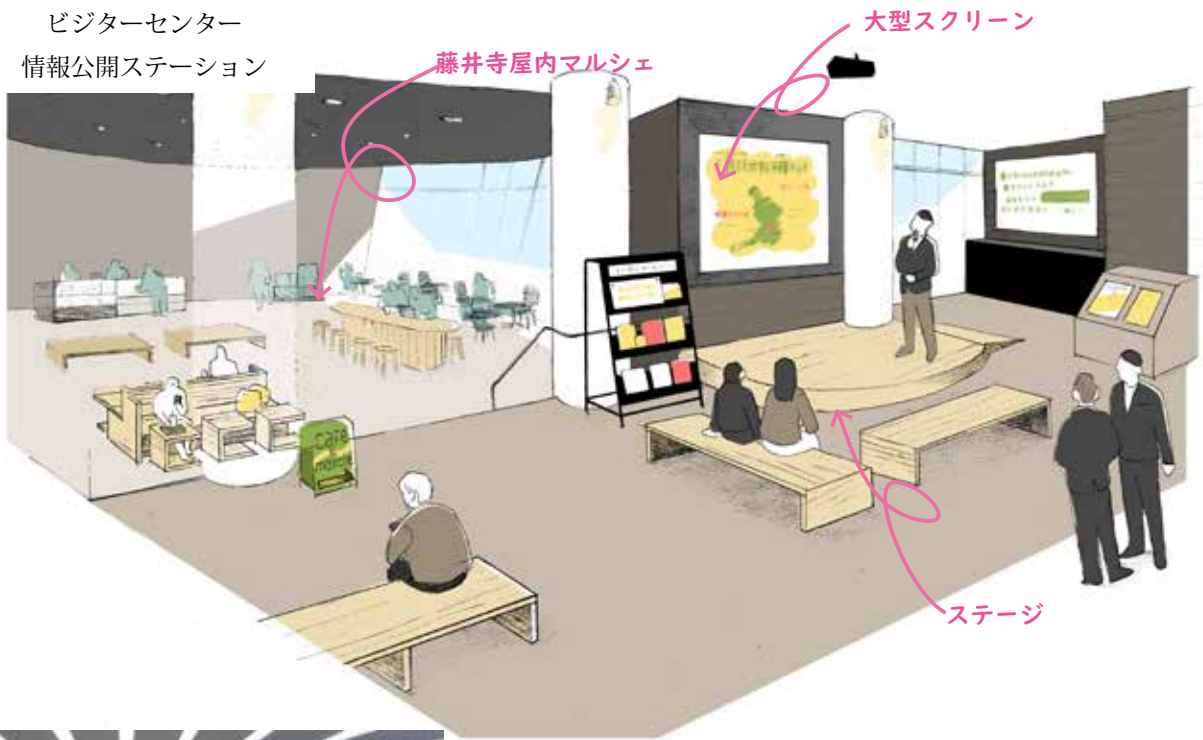
A	1	古市古墳群へようこそ！（展示エントランス）
	2	古市古墳群成立前史（旧石器～古墳時代前期）（スポット展示）
	3	巨大な古墳づくりと、それに関わった人々 （公開収蔵・企画展示含む）
	4	古墳の葬送儀礼と埴輪の世界
	5	大小さまざまな形の古墳にあらわされた当時の社会構造
	6	その後の古市古墳群（古代・中世・近世）
B		世界遺産 百舌鳥・古市古墳群 ・各古墳の説明 ・展示をふまえ、世界遺産としての価値の説明 ・体験コーナー



第8章

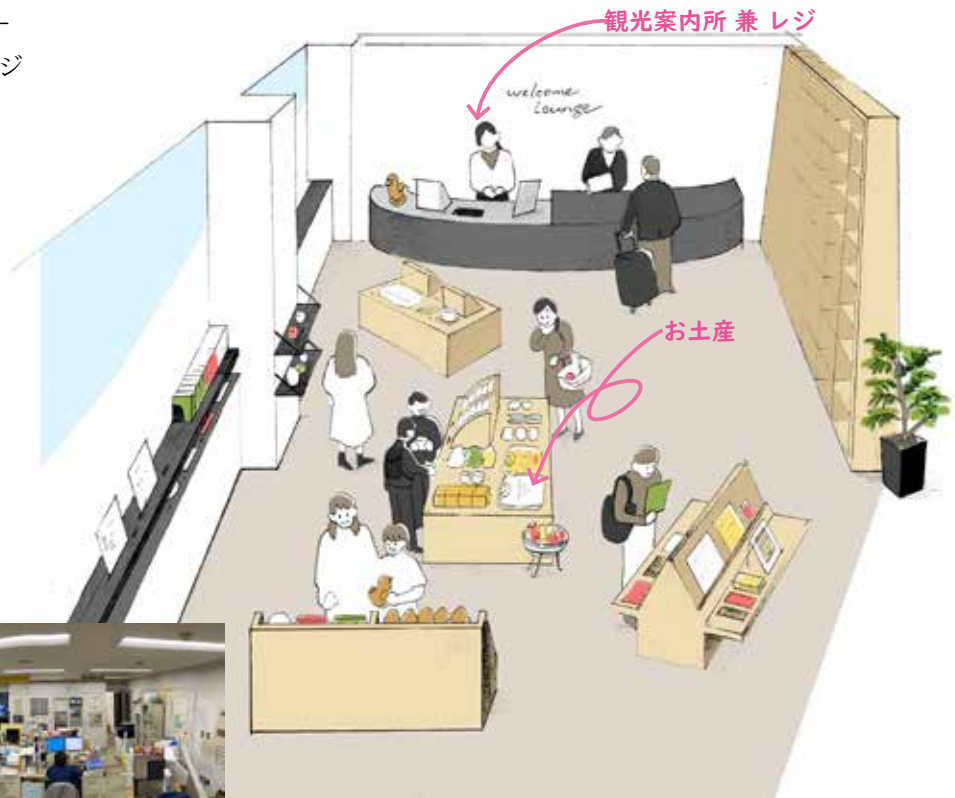
イメージ図

ビジターセンター
情報公開ステーション



現在

ビジターセンター
ウェルカムラウンジ



現在

※上記は、イメージイラストであり、パース図ではありません。

ビジターセンター
ガーデンテラス

現 温室

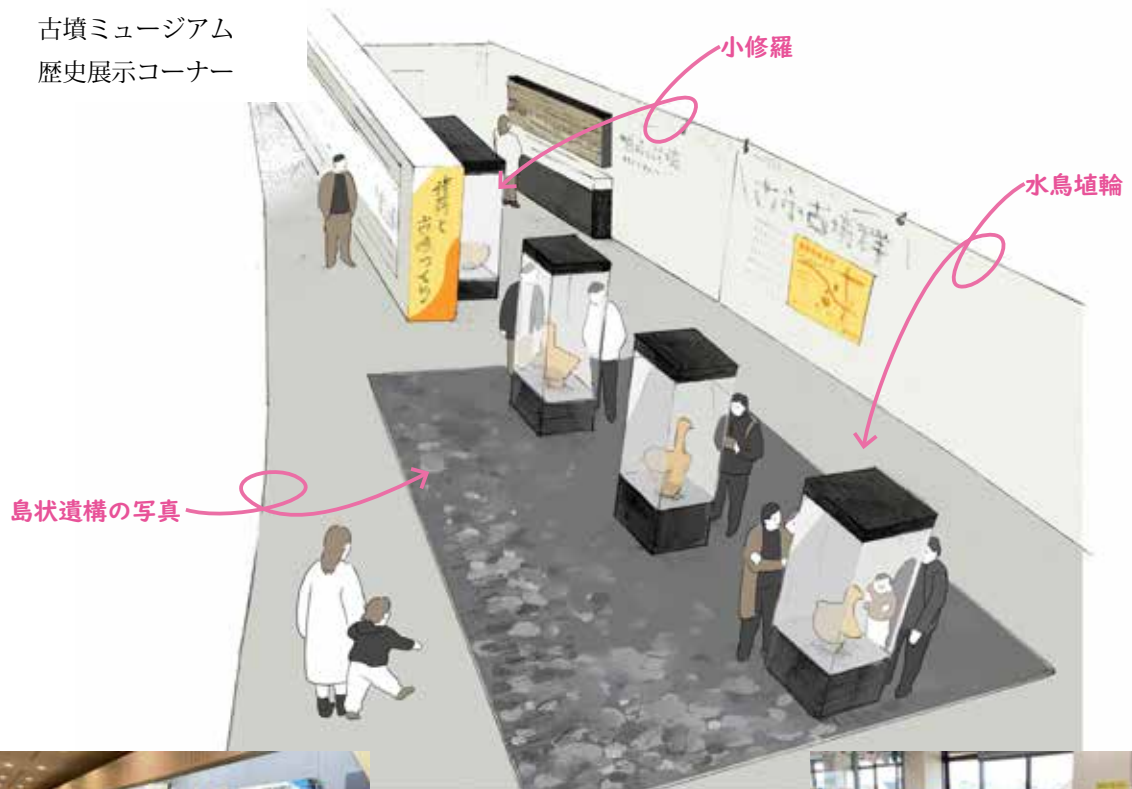
キッチンカー



現在

※上記は、イメージイラストであり、パース図ではありません。

古墳ミュージアム
歴史展示コーナー



現在



現在

古墳ミュージアム
世界遺産ガイダンスコーナー



現在

※上記は、イメージイラストであり、パース図ではありません。

第9章

今後のスケジュール

本年度（令和4年度）をスタート年度とし、基本構想を作成した。今後のスケジュールとしては、令和5年度に実施設計、令和6年度に改修及び施工。大阪・関西万博開催に合わせ令和7年度にリニューアルオープンの予定である。



図 9-1 今後のスケジュール（予定）

卷末資料

アイセルシュラホール観光拠点化計画の主な経過

年月日	内容	備考
令和4年8月30日	第一回検討会議	施設の現状確認 基本構想（案）第1章～第5章の検討
令和4年10月7日	第二回検討会議	基本構想（案）第4章～第7章の検討
令和4年12月23日	第三回検討会議	基本構想（案）第2章～第9章の検討
令和5年2月27日～ 令和5年3月12日	パブリックコメントの実施	基本構想（案）第1章～第9章について

基本構想（案）検討会議名簿

区分	氏名	所属
アドバイザー	天野 了一	四天王寺大学 経営学部 経営学科 教授
	和泉 大樹	阪南大学 国際観光学部 教授
	森下 章司	大手前大学 総合文化学部 教授 史学研究所長
オブザーバー	大阪府 教育庁 文化財保護課	
藤井寺市	藤井寺市 総務部 資産活用課	
	藤井寺市 市民生活部 観光課	
	藤井寺市 教育委員会教育部 文化財保護課	
	藤井寺市 教育委員会教育部 生涯学習課	
	藤井寺市 教育委員会教育部 図書館	
事務局	株式会社スタジオ三十三	

令和5年3月

藤井寺市

作成：株式会社スタジオ三十三